

# 宮農だより

金沢営農協議会  
J A 金沢中央  
石川県農業共済組合

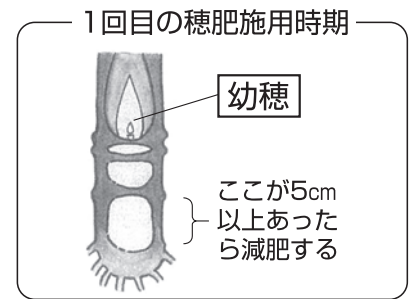
## 7月のポイント～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 畦畔・農道等は、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟、生育に対応した施肥体系
- 中干し後～出穂までの約1か月の飽水管理
- 出穂～刈取直前までの1か月以上の飽水管理(コシヒカリ)

出穂予想日 **コシヒカリ…7月29日頃** (圃場の1/2以上が出穂した時)  
(6月19日現在) 地域や圃場、天候によって出穂日は前後します。

## 乳白粒防止のためのコシヒカリの穂肥施用

- ポイント**
1. 1回目の穂肥は出穂16日前に適量施用する。  
1回目の穂肥施用時期の確認 → 幼穂長：15～20ミリ  
葉色：3.5 (葉色板)
  2. 施用時期は必ず幼穂の伸長と葉色、稲型を確認して施用する。
  3. 2回目の穂肥は遅くとも出穂の7日前までに施用する。



## 稲型診断パターン

**A型**…葉色が薄い(葉色3.5)  
(標準) 葉が立ち、下葉の乱れがない → 基準通り施用  
(茎数が多い場合は1回目の施用量を3kg程度減らす)



写真：A型の例

**B型**…葉色がやや濃い(葉色4.0)  
株が出来過ぎ、らちが見えない  
下葉の乱れがみられる → 1回目の施用時期を3日程度遅らせ、  
施用量を基準量の2～3割程度減らす  
2回目は、基準量を施用する

**C型**…葉色が濃い(葉色4.5)  
葉の乱れが目立つ → 1回目の穂肥を施用しない  
2回目は、草丈・葉色を見て施用量を判断する

(B型、C型の稲型ではすでに下位節間が伸びてきています。倒伏に要注意!!)

## 穂肥施用時期の目安と施用量

(10a当たり)

区分 品種名	肥料名	1回目		2回目	
		施用時期	施用量	施用時期	施用量
コシヒカリ	BB有機入追肥526号 (N:15-P:2.4-K:6)	7月13日前後	13kg	7月21日前後	17kg

◎市街地では上記の2～3日前を目安とします。

◎1回目の穂肥を減量した場合でも2回目は必ず基準量を施用する。

## 今後の水管理

中干し後～刈り取り5日前までの間は、**飽水管理**とする。

- 平坦地域の飽水管理の目安  
ゆめみづほ 8月15日頃まで  
コシヒカリ 8月30日頃まで

飽水管理とは…こまめに通水して、常に土壤水分を保つような水管理をすること

中干し後から出穂までは、約1か月間(コシヒカリ)の飽水管理!!

J A金沢中央のホームページでも宮農だよりを掲載しております。「J A金沢中央」で検索して下さい。

# 病害虫防除 斑点米を発生させるカメムシ類が多く、の地点で確認されています。

## 基幹防除 (出穂予想：ゆめみづほ7月17日頃、コシヒカリ7月29日頃)

### ◆粒剤散布の場合 (市街地など粉剤散布ができない圃場)

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月3～7日 (出穂前14～10日)	7月15～19日 (出穂前14～10日)	<b>イモチエースキラップ粒剤</b> いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類 *使用回数は1回です。	<b>3kg/10a</b> <b>収穫35日前まで</b> (散布後35日以内の収穫不可)
2回目	7月20～24日 (出穂後3～7日)	8月1～5日 (出穂後3～7日)	<b>スタークル粒剤</b> または <b>スタークル豆つぶ</b> カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類	<b>粒剤：3kg/10a</b> <b>豆つぶ：250g/10a</b> <b>収穫7日前まで</b>

※粒剤は、湛水状態で散布し、3～4日間は湛水状態を保つ。

※スタークル粒剤での防除は、「出穂期～穂が出揃った頃」が最適です。

### ◆粉剤散布の場合 カメムシ類に効果的な防除は、出穂7～10日後頃と、更にその7日後頃の散布です。

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月10～14日 (出穂前7～3日)	7月22～26日 (出穂前7～3日)	<b>ビームトレモンセレン粉剤 DL</b> いもち病、紋枯病、カメムシ類、 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ	<b>4kg/10a</b> <b>収穫21日前まで</b>
2回目	7月24～27日 (出穂後7～10日)	8月5～8日 (出穂後7～10日)	<b>ラブサイドスタークル粉剤 DL</b> いもち病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ、イナゴ類	<b>4kg/10a</b> <b>収穫7日前まで</b>
3回目	7月31日～8月3日 (出穂後14～17日)	8月12～15日 (出穂後14～17日)	<b>スタークル粉剤 DL</b> カメムシ類、ツマグロヨコバイ、 ウンカ類、イナゴ類	<b>3kg/10a</b> <b>収穫7日前まで</b>

※粉剤散布後3時間程度降雨がなければ、効果があります。

※防除は稲の株もとにもいきわたるように散布して下さい。

## 随時防除

稲こうじ病が前年発生した圃場では菌の密度を下げるため、Zボルドー粉剤DLを散布して下さい。

対象病害虫	薬剤名	散布量	防除時期 (収穫前使用日数)
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	4kg/10a	出穂前20～10日 (出穂10日前まで)
稲こうじ病・紋枯病	モンガリット粒剤	3kg/10a	出穂前21～14日 (収穫45日前まで)
紋枯病	リンバー粒剤	3kg/10a	出穂前14～10日 (収穫30日前まで)
コブノメイガ	Mr.ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	多発時 (収穫7日前まで)

## 金沢管内の生育調査結果 (6月19日調査)

	ゆめみづほ				コシヒカリ			
	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(枚)	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(枚)
本年	45.5	33.5	662	9.5	47.2	27.1	552	8.8
前年	36.6	33.4	659	9.9	35.2	25.9	528	9.3
平年	41.2	29.5	533	9.7	44.9	28.1	522	9.4

生育概況

- ・草丈は、ゆめみづほで平年より長く、コシヒカリで平年よりやや長い。
- ・茎数は、ゆめみづほで平年より多く、コシヒカリで平年並。
- ・生育は、ゆめみづほは平年より2日程度遅く、コシヒカリで平年より5日程度遅い。

※農薬は使用時期・量を厳守し、正しく使用しましょう。

※7月上旬まで畦畔や農道の除草を徹底しましょう！刈取った雑草は用排水路に入らないよう注意！